

## 平成20年度 大阪明星学園における学校評価（自己評価）についてのご報告

平成20年、学校教育法施行規則の則り、学校評価（自己評価）を実施しました。学校評価の目的については、文部科学省「学校評価ガイドライン」に従い

- ① 学校が運営目標を設定し、達成状況を把握・整理し取り組みの適切さを検証することにより、学校運営を組織的・継続的に改善すること。
- ② 学校が評価の実施とその結果を説明・公表することにより、保護者、地域住民の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めること。
- ③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

の三点とし、以下の手順で実施しました。

- ① 評価方法 教職員による自己評価（アンケート方式）
- ② 評価対象期間 平成20年度（1年間）
- ③ 評価実施時期 平成21年2月
- ④ 評価項目 「学校経営」「教育内容」「生徒指導・支援」「教員研修・資質向上」「その他」の5項目36観点により評価しました。

評価結果を教科、学年、各部においてそれぞれの立場でまとめあげ理事長（学校設置者）に提出、共通認識としてしっかりと受け止めるとともに、本学園生徒がより良い環境で教育活動が享受できるように学校運営の改善の方向性を確認、その改善に努力して参りたいと考えております。

- 以下、
- （1）自己評価のアンケートの雛形 （資料1）
  - （2）その分析と具体的方向性 （資料2）

の二点を添付いたします。

平成20年度 明星中・高 教職員・自己評価アンケート (資料1)

1-よく当てはまる、2-やや当てはまる、3-あまり当てはまらない、4-まったく当てはまらない

評価の観点		評価項目	設 問	1	2	3	4
学 校 運 営	スクール・ アイデンティティ	建学の精神について	建学の精神が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している				
		宗教的情操教育について	カトリックの理念に基づく教育に関して、教職員、生徒ともに理解している				
		愛校心について	在校生、卒業生は学校に誇りを持っている				
	教育課程 カリキュラム	学習指導要領の対応状況	教育課程は文科省の学習指導要領に則り、対応を行っている				
		教育計画について	年間を通じた教育計画を各教科別に立てている				
	教職員連携	教員・教科間連携状況	教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づき教育活動が行われている				
		教員と事務との連携	教員と事務職員との情報交換の機会があり、相互理解、連携はとれている				
		会議の有効性	教職員会議をはじめ各種会議が有効・効率的に機能している				
	経営関係	経営状況について	学校の経営に関して、理解し信任している				
	情報管理	ホームページの活用	学校ホームページで可能な範囲の情報を開示している				
		授業公開状況	保護者会を通じ、保護者などへ授業を公開している				
	危機管理	役割分担について	事故・事件・災害等に対処する役割分担がされている				
		危機管理対応状況	危機管理マニュアル・警察・消防等との連携、訓練など安全対策が取られている				
開かれた学校	地域との対応	地域や地域住民との連携対応がなされている					
教 育 内 容	人権教育	教育体制	人権尊重の教育に関して、H・Rやさまざまな学習方法で意識を高める教育を行っている				
		研究体制	人権尊重に関して、委員会を立ち上げ、さまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある				
	国際化 グローバルイ ンイニシア ティブ	国際理解	他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を採り入れている				
		国際化への対応	留学制度の充実や外国人留学生の受け入れなどの対応を行っている				
	情報教育	情報能力の育成	生徒の情報活用能力の育成を図っている				
		情報モラル指導	情報の発信に伴う責任等情報のモラル面の教育に取り組んでいる				
	生徒会活動	生徒会活動支援状況	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動出来るよう学校全体で支援している				
		部活動	部活動は活発である				
	ボランティア 慈善活動	奉仕活動について	小鳩会などを通じ、慈善・奉仕活動はよく努力している				

評価の観点		評価項目	設 問	1	2	3	4
生徒指導・支援	生徒指導	指導方針の一貫性	生徒指導は学校の方針・校則に従って進められている				
		生活指導について	生徒の生活指導に対して、組織的に対応する体制がある				
		家庭との連携状況	生徒指導において、家庭との連携が円滑に出来ている				
	生徒支援	学習指導について	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている				
		進路指導について	生徒個々の興味・関心・適性に応じた進路選択が出来るようなキャリアガイダンス・支援体制がある				
		カウンセリング体制	カウンセリングマインドを採り入れた支援体制がある				
教員研修・資質向上	教員研修	校内研修	効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している				
		校外研修	教員が計画的に校外研修を受ける情報並びに体制が整っている				
		研修成果の共有状況	研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報・内容を共有しあう体制がある				
		教員間の資質向上について	教員同士で、授業内容を評価または意見交換など研鑽に努める機会をもっている				
		初任者のサポートについて	初任者など、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある				
その他	登下校	登下校の生徒のあり方について	登・下校に際し、生徒指導は円滑に行われている				
	美化意識	美化・清掃意識について	校庭・校舎内・教室等において清掃や美化意識の向上は図れている				

平成 20 年度 学校評価（自己評価）の概略について （資料 2）

自己評価については、六ヶ年一貫の観点から明星学園（明星中学校、高等学校）として自己評価を実施しています。

評価項目	評価と方向性
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本校のスクール・アイデンティティである建学の精神・カトリックの理念に関して、生徒に十分浸透していないのではないかと回答が多かった。カトリックの教育理念である「愛と正義に裏打ちされた人格形成」が「明星がめざす人物像」であることを、もう一度教職員間でも再確認し、核となって社会に奉仕することのできる「明星紳士」の育成をめざしていろいろ具体的な方策を検討してゆかなければならない。</li> <li>・ 「教育課程」については、科目読み替えや未履修の科目もなく、学習指導要領は遵守をしており、さらに主要科目は定められた時間以上の時間数を確保、余裕のある授業を実施している。また各教科とも年間教育計画（シラバス）を作成、年次毎に見直しており高い評価であった。これからも、学年に応じた学力目標を設定し、各教科間の連絡も密にとりながら「質の高い」、「密度の濃い」授業が実践できるようなカリキュラムの構築を進めたい。</li> <li>・ 危機管理については、火災・地震災害に対する避難訓練を実施しているものの日常のその他対応マニュアルの点で危機管理不足が評価に表れている。危機管理マニュアルの充実と教職員全体への啓蒙を図ってゆきたい。</li> </ul>
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権教育においては、年 7 回人権ホームルーム、年 1 回映画鑑賞を実施するなど計画的に人権教育がなされており、高い評価と考える。</li> <li>・ 国際化への対応については中学 2 年で海外研修旅行を実施している。国際化教育についてはこれからも新たな視点で研究を進めていく必要がある。</li> <li>・ 情報教育については、「情報」として授業を実施している。モラルの低下に伴いサイバー犯罪が蔓延している現代社会において情報モラルの向上が指摘された。情報の授業でも技術指導のみならず情報モラル向上の指導も図ってゆきたい。</li> <li>・ クラブ活動は活発であり評価が高かった。また、慈善事業として「小鳩会」を設置しており全生徒が会員である。毎月の募金活動や「米一合」運動の奉仕活動などが行われており慈善活動については高い評価が得られた。</li> </ul>
生徒指導 生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毅然とした生活指導の方針は一貫しており、生活指導が組織的に行われていること、また、スクールカウンセラーも 2 名来てもらい生徒支援を行っているなど生活指導・生徒支援については高い評価を得た。教員間での温度差のない一貫した指導を徹底してゆきたい。</li> <li>・ 進路指導についても、ホームルームで将来に向けての「キャリアガイダンス」の実施や大学の先生等による講演会、年間計画された外部の学力（模擬）テストの実施などの進路指導支援についても高い評価であった。</li> <li>・ 多種多様な価値観があふれている現代にあって自分をしっかり見つめ、正しい価値判断ができるように教職員全体で生徒指導、生徒支援を図っていく方策をさらに模索してゆきたい。</li> </ul>
教員研修 資質向上	<p>教員研修に対する取り組みについては低い評価が出た。そのため、研修運営委員会を設置することを決定。委員会では年間の教職員研修の企画、運営を実施、また、校外で実施される研修についても参加した教員から全教職員に報告する研修報告をもち情報の共有化を図る計画である。教員の「教育力」の資質向上をめざして研修制度を充実させ次年度の実施にむけて研究中である。</p>
その他	<p>生徒の美化意識の低下、登下校のマナーの低下が評価でも確認された。教室の清掃の徹底を図り美化意識の向上を図るとともに、通学路を示したプリントを配布し登下校のマナーについて指導した。近隣の方々や通勤されている方々に迷惑のかからないように、登下校のマナーについての指導をしっかりとそして地道に続けていく方針である。</p>